



TOHO GAKUEN SCHOOL OF MUSIC

CAREER SUPPORT CENTER 2025

桐朋の キャリア支援

進路相談・ガイダンス | 留学・進学サポート | 講習・セミナー | 就活サポート

講座と実践

P.1 - 2

イベント
レポート

P.3 - 4

同窓生
インタビュー

P.5 - 7

卒業生
進路データ

P.8

センターの
利用方法

P.9 - 10

講座と実践

キャリア支援センターでは、学内講座の他、様々な音楽制作現場を見学したり、アウトリーチ演奏などの体験を通して学ぶ実践型のプログラムを実施しています。

音楽を社会に届ける・音楽でつながる

アウトリーチ

福祉施設や地域の集まりなどで、音楽を通じたコミュニケーションの場づくりを体験します。



近隣のホスピス内コンサート



居室のある階にも演奏をお届けしました。場に応じた曲や弾き方を考える良い機会となりました



秋の野外イベントにも出演。曲間のトークや演出も工夫しました



終演後には聴いてくれた子どもたちとのふれあいもありました

音楽祭の舞台に立つ、つくる！ 調布国際音楽祭

調布のまちを舞台に毎年初夏に開催される音楽祭では、オープンステージやミュージックカフェでの演奏の他、制作スタッフとしても学生が活躍しました。



主催財団の専門スタッフの皆さんにご指導をいただきながら、ステージマネージャーや進行係として学生スタッフが活躍しました

演奏企画で参加した学生たちの声

「自分たちで曲目を決め、曲順や司会のことも考えるのは、すごく自分たちの力になるなと改めて思いました」
「MCを含めたリハーサルの大切さを感じました。話す必要のあることとないことを再認識し、トークのタイミング、曲間に必要な時間のシミュレーションをすることが全体の流れの良さにつながると思いました」



オープンステージでは様々な編成の学生アンサンブルが出演



コンサート制作について学ぶ 紀尾井ホール 春の見学ツアー

「コンサートをつくる ～ホール見学と公演企画制作講座」音楽関連企業やホール、演奏団体を訪問する見学ツアーを実施しています。夏の東京交響楽団事務局訪問に続き、春には紀尾井ホールを8名の学生が訪れました。30周年を迎えたホールの歴史や、公演の背後にあるスタッフの皆さんの経験と知識の厚さ、そして何よりも「良い」と信じたものを諦めずに世に出し続ける信念についてうかがうことができました。

参加者の声

- ・公演の制作が思った以上に長期で驚いた。
- ・事前に段取りをしっかりと考えることが大切だと学んだ。
- ・舞台や反響についてのこだわりや、構造について知ることができたので、演奏を聴く際にいろんな視点を持ってそうだ。

イベント・レポート

就職活動や留学、キャリアアップのためのさまざまな分野の講座の他、採用説明会(音楽教室、自衛隊音楽隊他)なども開催しています。

2024年7月28日(日)

桐朋学園宗次ホール子供のための音楽会 「動物たちとお友達になろう!」

夏休み始めの日曜午後、ホールに子供達を招待しての音楽会を企画しました。今年は、オランダ出身の即興演奏家カルスト・デ・ヨング氏を監修者としてお迎えして、「動物の謝肉祭」(サンサーンス)やピーターと狼(プロコフィエフ)を題材にした30分プログラムを学生たち自身の手により構成の上、2回上演しました。管、弦、打楽器とピアノを取り混ぜた10人のアンサンブルで試行錯誤を重ねながら、即興を交えた演奏でストーリー作りにも挑戦しました。



終曲の連弾に加わった監修のデ・ヨング先生と共に、カーテンコールに応える出演者達



終演後の楽器体験コーナーは長蛇の列となり、沢山の子供達がヴァイオリンや打楽器に触れて帰りました

演奏に参加した学生の声

- ・カルスト先生のおっしゃっていたように、音符ではなく音をつくること、楽譜に書いてあることだけでなくその先の鳴っている音に耳を傾け音楽を作っていくという心持ちは、普段の演奏から必要なことだと強く感じました。
- ・もともと子供と関わる機会もあまりなかったり、人に何かを教えたりすることに対しても苦手意識があったのですが、楽器体験コーナーでヴァイオリンの音が出たことに喜ぶ子供の姿を見ることができ、とても良い経験になりました。

お客様の声

- ・子ども達が音楽に親しみ、楽しめるように企画なされていてとても素晴らしい音楽会でした。進行役の打楽器のお兄さんの言葉がけが優しくて息子も夢中で見ていました。
- ・テレビとYouTubeから流れる音しか知らない子供が多い中、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

Play



★学生専用ページ限定

キャリア支援センターのウェブサイト内、学生専用ページでは過去のセミナーの動画を視聴することができます。
※学生専用ページのID、パスワードはポータルサイトを参照ください。

<http://www.toho-career.com/>

〈2024年度実施のイベント例〉

就職活動や留学、キャリアアップのためのさまざまな分野の講座のほか、採用説明会なども開催しています。多くの講座はオンラインでも参加可能です。

■音楽キャリアをサポート

音楽キャリア実践講座I 演奏家として地域に根差す! 地域と生きる!

講師:田村緑(ピアニスト、アウトリーチ・アーティスト)

音楽キャリア実践講座II つながる「音楽ワークショップ」の秘密

講師:南條由起(ヴァイオリニスト、ワークショップデザイナー)

留学を控えている人のための実践音楽英語講座

講師:大島路子(キャリア支援センタースタッフ、本学教員)

ランチセミナー「人を動かすコトバ」音楽を広める、伝えるための言葉について考えてみよう!

講師:阿南一徳(東京藝大演奏芸術センター准教授)

確定申告講座

講師:栗原邦夫(税理士)

■見学、体験から学ぶ

東京交響楽団事務局訪問「オーケストラの企画制作」

紀尾井ホール見学「コンサートをつくる～ホール見学と公演企画制作講座」

■学校で教える仕事について知る

教職特別講座

講師:風見章(本学特任講師)

■就職支援会社などによるガイダンス

■企業等による採用説明会(音楽教室、自衛隊音楽隊など)



同窓生インタビュー

諦めない覚悟

東京交響楽団オーボエ&イングリッシュホルン奏者／本学講師
最上峰行先生

桐朋学園大学を経て、フリーランスとして活動。その後、現在のオーケストラに入団しました。私はフリーの期間が少々長かったのですが、その間、スタジオの仕事やオーケストラのゲスト首席など、貴重な経験をたくさんさせていただきました。しかし、やはりオーケストラに入りたいという思いがあり、オーディションを受け続けていました。もし、本気でオーケストラ奏者を目指すのであれば、諦めない覚悟が必要かもしれませんね。管楽器は特に、タイミングによっては何年も空席ができないこともありますから。

学生の頃を振り返ると、とにかく練習していました。それでもまだまだできることがあったのではないかなと思うことがあります。練習にゴールはありません。

皆さんにアドバイスをおくるとしたら、挨拶はしっかりと、相手に気持ちが伝わるように。些細なことかもしれませんが、気持ちのこもった挨拶は印象に残ります。挨拶は音楽の世界で生きていくための第一歩です。

2024年11月26日「同窓生交流会」より

人生の岐路

東京都交響楽団コンサートマスター／本学講師
水谷晃先生

3歳でヴァイオリンを始めるも、小学4年生の頃、一家でインドネシアに引っ越すことに。そこではヴァイオリンのレッスンを定期的に行うことができませんでした。しかし、ガムランやケチャダグスなど、現地の豊かな伝統音楽に触れるなど、とても貴重な経験をしました。その後、中学2年生のときに帰国。建築家になる夢を抱いていましたが、高校2年生の時に価値観を覆されるような出来事に直面し、音楽の道を志すことを決意。そこから音大受験に向けての準備が始まりました。

当時師事していた小林健次先生のもと、練習に打ち込む日々。努力の甲斐があって入学することができましたが、「夢を実現させるなら1番で卒業するくらいでない」とと鼓舞され、朝から晩まで練習に明け暮れる日々は続きました。

在学中、仲間と組んだカルテットで国際コンクール上位入賞を果たしましたが、私がやりたかった音楽はオーケストラにありました。もともと、高校生の頃に所属していた豊田市ジュニアオーケストラでの経験がヴァイオリニストへの道を歩ませたという経緯もあったのです。カルテットを続けるか悩みましたが、そのときの選択があったからこそ今があります。

オーケストラ奏者を目指している方へのアドバイスとしては、まずは、どんなオーケストラに入りたいかを思い描くことが大事だと思います。オーケストラによって特性が異なり、それによって求められる音作りも違ってきますから。そして、オーディションに向けての練習はいわゆる「オケスタ」に取り組むのではなく、「作品」に取り組むという姿勢で、スコア全体を見ながら自分のパートを練習してください。

2024年9月12日「同窓生交流会」より

就職活動に正解はない

公益財団法人ジェスク音楽文化振興会
事務局次長 武田林さん

桐朋では音楽学を専攻していました。学部を経て、研究生の課程を修了し、現在も勤務する公益財団法人ジェスク音楽文化振興会に就職。音楽祭や演奏会、コンクールなどの企画制作に携わっています。

大学入学当初からのこの仕事に就きたいと目標が定まっていたわけではありません。将来のことについてはだいぶ迷いました。研究の道に進むか、「現場（＝クラシック音楽に関わる仕事）」に出て働くか、考え抜いた末、私は後者を選択。一般的な就職活動を行うのではなく、クラシック音楽関連のアルバイトを探して実際に働いてみることに。音楽事務所のほか、ホールのレセプションистのアルバイトもしました。アルバイトを通じて、クラシック音楽のさまざまな仕事を経験したり、見聞したりして、その中で私は「演奏会を作る仕事が一番好きだ」と感じ、現在の職業を選択しました。

「就活」と一口に言っても、そのやり方はさまざまだと思います。どのようなやり方が正解なのかは分かりませんが、自分なりに将来を見据えて準備することができたと思っています。

桐朋の生徒・学生は皆優秀です。それに加え、皆それぞれに「音楽が好き」という強い気持ちを持っています。しかし、ただ「好き」というだけでは仕事にはなりません。好きな音楽を「ただ好き」で終わらず、「仕事に繋げる」。それを常に意識しておくと思いいます。

キャリア支援センター公式noteより

桐朋からパリ音楽院へ

2021年度卒業

パリ国立高等音楽院第二課程室内楽科

第三課程現代音楽科在籍

谷口知聡さん



～私のキャリアパス～

1歳半頃 自宅にあったピアノで遊び始める

2歳 子供のための音楽教室に入室

ソルフェージュを習い始める

3歳 同教室でピアノを習い始める

11歳頃 音楽が母語のような存在であることに気付く

16歳 桐朋学園大学附属女子高等学校音楽科に進学

18歳 同大学に進学

22歳 パリ国立高等音楽院に留学

現代音楽を学べる環境を求めて

私は桐朋学園大学卒業後、フランスに留学。パリ国立高等音楽院第二課程ピアノ科を修了し、現在は同音楽院の第二課程室内楽科及び第三課程現代音楽科に在籍しています。この課程では主に室内楽と現代のアンサンブル作品（主に1945年以降に書かれた作品）、そしてソロにも取り組み続けています。留学先にフランスを選んだのは「ご縁が重なった」というのが大きな理由ですが、当時、現代音楽を本格的に勉強できる環境に身を置きたいという気持ちが強くあり、今の環境を選びました。

用意周到な準備

留学に向けての準備は大学2年の終わりから始めました。まず、給付型奨学金制度にどのようなものがあるかを調べて応募。それから、海外の教育機関について調べ、自分の学びたいことが学べるような環境をいくつか見つけたら、先輩や先生方、留学について詳しいエージェント（無料相談）に相談。環境や入試について情報収集しました。この段階でパリ国立高等音楽院に留学したいという気持ちが固まりました。

志望する留学先が見えてきてからは入学手続きに必要な書類や留学生活を始めるために必要な行政手続きについて調べたりしたほか、住まい探しなど生活環境を整えるための情報を集めました。各手続きに関しては、日本で行うことに加えて、留学先到着後にやらなければいけないことに関しても事前に調べてまとめておいたので、慌てずに済みました。

在学中に学んでおいて良かったこと

学んでおいて良かったのは語学です。留学先の国の言語が少しでも話せるか、そして片言でもいいから話す努力をするかしないかによって経験する苦勞の度合いも精神的な負担も大きく変わってくると思います。語学の学習に“やり過ぎ”はありません。



また、桐朋のソルフェージュや音楽理論、音楽史のレベルはとても高く、どこに行っても通用するものだということを実感しています。

後輩たちへメッセージ

今、世の中には情報が溢れ、一見便利のように感じますが、恵まれていることに気付けないほどです。周りの人や物事に対する興味の前に、自分に対する興味を持つ人が次第に少なくなっていると個人的に感じています。

自分自身の将来について不安を感じない人はいないと思いますし、何をすれば良いかわからないと感じること自体は、誰もが経験するごく当たり前の悩みだと思います。しかし、学生という身分は何かを習得するために堂々と失敗することが許されている貴重な期間です。時間がどれくらいかかるかはそれぞれだと思いますが、自分が何が好きで何故それが好きなのか、何に耐えられないくらいの嫌悪を感じ、原因は何なのか、このように自己分析をするうちに、自分に興味を持つように他者にも興味を持ち、次第に自分の周り全体に興味湧き、自分の立ち位置や役割に気が付く時が来るかもしれません。

その時に「手元に道具が何も無い」という状態にならないように、今少しでも興味のあることや挑戦できそうなことには躊躇いなく挑戦して、学生の間にできるだけ多くの失敗経験を重ねることが、未来の自分を形作るために大切なことだと思います。

広い視野が可能性を広げる

ピアノ専攻2020年度卒業

文部科学省勤務

蜷川舞さん



■文部科学省に入省

私は 2020 年度に桐朋学園大学を卒業し、カレッジ・ディプロマ・コースを経て 2022 年度に文部科学省に入省しました。4 年目に入り、忙しくも充実した毎日を送っています。

文部科学省では日本の教育行政に関する業務、国会に関する業務に当たっており、具体的には文部科学省大臣官房大臣秘書官室という部署で、主に大臣と大臣秘書官のサポート業務を行っています。

因みに、大臣秘書官とは、大臣に張り付いて諸行事への出席、大臣の日程管理、国会答弁の資料出しなどを担当する役職です。

■やり甲斐を感じる瞬間

業務に当たる上でやり甲斐を感じるのは、大臣や秘書官の役に立てていると感じる時です。例えば、大臣や秘書官のオーダーに迅速に応えることができた、指示がある前に先回りして業務を行うことができたときなどですね。なにより、文科行政のトップである大臣をお支えしていると思うと、貴重な体験をさせていただいている、と感じます。



中高時代から続けていたチェロが縁で、桐朋在学中に3度、アマチュアオーケストラと共演。学外でも積極的に活動したことが視野を広げるきっかけとなった

現在の職場にて。音楽が関係する文化庁も文部科学省の管轄。資料を読む際に音楽の専門知識が活きる



〜私のキャリアパス〜

3歳 ピアノを習い始める

中学・高校 オーケストラ部でチェロを弾く

18歳 桐朋学園大学入学 音楽科教員を目指す

22歳 カレッジ・ディプロマ・コースへ進学

22年度国家公務員試験合格

23歳 文部科学省入省

■この仕事を選んだ理由

文部科学省への入省を目指した理由はいくつかあり、まずは「安定した職業に就き、自立したかった」というのが大前提としてありました。ですから、「正社員、正規職員」になることがマストでした。

次に自分の性格です。私は自分自身が成功することよりも、人のサポートをして、それが上手くいくことの方が幸せを感じるタイプだと前から自覚していました。そのことから、企業で利益を追い求めるより国や国民のために働く方が向いているのではないかと思います。

また、就職することを考え始めた頃、私は一般大学を卒業した人たちと同じ土俵で競うことに不安を感じていました。つまり、民間企業の就活市場において「音大卒」という学歴は不利なのではないかと少々疑心暗鬼になっていたんですね。それで、筆記試験重視の公務員試験に魅力を感じ、挑戦することにしました。今となっては、民間市場でも同等に戦うことは充分可能だったと思っています。

最後に公務員の中でも文部科学省の職員を選んだのは、より大きなレベルで国民生活に携わるためには地方公務員よりも国家公務員かな、と考えたからでした。また、音楽を学んでいたこと、美術や芸術に興味があったこと、教職を学んでいたことから、教育・文化芸術を所管している文部科学省で働きたいと思いがありました。

■学生時代にやっておいて良かったこと

自分の専攻である音楽の勉強、ピアノの練習を一生懸命したことはもちろんですが、アルバイトをしたり、他大学のインカレサークルに参加したりしたこと。それらを通じているような方々と出会ったことで視野を広げられたように思います。

■桐朋生たちへ

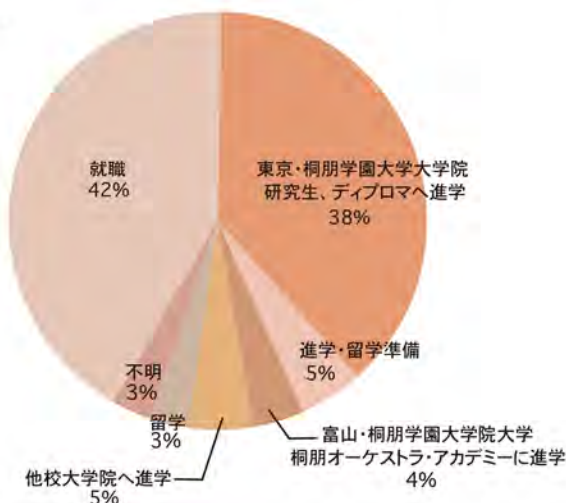
音大生の進路といえば、進学、教員就職、音楽教室就職が真っ先に思い浮かぶと思います。けれども、他にもいろいろな業界があり、さまざまな職種があります。将来の進路を考えるタイミングでどのような仕事があるのかを調べてみて、世界の広さを知った上で、納得のいく進路を決められれば良いと思います。そして、ぜひ周りの大人の方々にもたくさん話を聞いてみてください。広い視野は可能性をも広げてくれるはずです。

卒業生 進路データ

2023年度卒業生(155名) 進路先内訳

【近年の卒業生 進学／留学先(一部)】

東京 桐朋学園大学大学院・ディプロマ・研究生
富山 桐朋学園大学院大学・オーケストラアカデミー
二期会研究所
エコールノルマル音楽院(仏)
スコラ・cantorum(仏)
ベルリン芸術大学(独)
ウィーン市立音楽芸術大学(奥)
ハンブルク音楽大学(独)
マーストリヒト音楽院(蘭)
マンハッタン音楽院(米)
王立音楽院(英)
インディアナ大学(米)
コルバーンスクール(米)



就職した65名の 就職先内訳

【近年の卒業生 就職先例】

● 音楽教室

桐朋学園大学音楽学部附属
子供のための音楽教室
島村楽器
宮地楽器
ヤマハ音楽振興会

● 演奏

NHK交響楽団
新日本フィル交響楽団
陸上自衛隊
読売交響楽団
宝塚歌劇団

● 音楽関連

公益財団法人川崎市文化財団
公益財団法人日本製鉄文化財団
サントリーパブリシティサービス株式会社
avex株式会社
株式会社ヤマハミュージックマニュファクチャリング

● 一般就職(音楽以外)

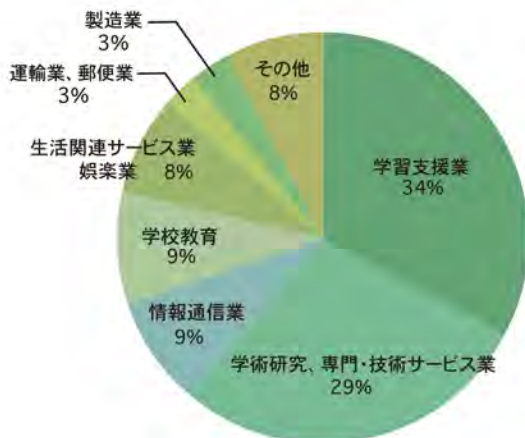
日本年金機構
ANAエアポートサービス株式会社
キャノンITソリューション 株式会社
ニトリ 株式会社
JTBデータサービス
エンジャパン株式会社

● 音楽大学等演奏補助員

桐朋学園大学(伴奏員)

● 個人事業主(演奏、指導)

学校教員(公立、私立中学、高校、小学校 音楽専科、特別支援級)



キャリア支援センターの利用方法

■ウェブサイト

キャリア支援センターに関する全ての情報を集約しています。イベント情報／個別相談予約／Google Classroom(求人など就活情報を掲載)やSNSへのリンク、就職活動の進め方などはこちらで確認してください。

内々定・内定報告、インターンシップへの参加申請は学生専用ページから行ってください。パスワードは学内オリエンテーション資料及び、大学のポータルサイト「キャリア支援センター(ポータル画面左下の欄)」に掲載しています。

※ポータルサイトにも学内で行うイベント、講座の情報などを随時掲載しています。



キャリア支援センター ウェブサイト

<http://www.toho-career.com>

イベント情報、各種相談予約のほか、SNSや
Google Classroomへのリンクもこちらから！



■Google Classroom

桐朋のGoogleアカウントでClassroomのコードを入力し、登録してください。登録すると、学内キャリア関係の情報、大学に届いた求人情報等のお知らせをメールで受信することができます。

またClassroomのサイトでは「授業」タブで説明会(音楽関係)、求人(演奏)など、トピックごとに情報を閲覧することができます。



■資料ラック、棚

仙川では学生ホール内、調布では1+階エレベーター横に、キャリア関連の資料を配架しています。就職やスキルアップについての情報収集につながる資料を随時追加しています。

■SNS

X/instagram
@tohocareer

フォローして最新情報をチェック！



学生ホール(仙川)に設置している棚と資料ラック

■個別相談

- 対面での相談(仙川・調布キャンパスにて)の他、オンラインでも個別相談を受けることができます。
- 特定の進路(留学、進学、就職、音楽活動)についてはもちろん、進路についてまだ迷っている人も、気軽にご相談ください。
- キャリア支援センタースタッフの他、外部就活カウンセラーの先生などに相談することもできます。
- 相談は予約制です。キャリア支援センターのウェブサイト(左ページのQRコードからアクセスすることができます)から予約してください。

■桐朋学園大学キャリア支援センターについて

桐朋学園大学キャリア支援センターは専任教員による学生委員とセンタースタッフとで構成。就職、進学、留学の相談、音楽家になるためのキャリアサポートを行っています。サポートは卒業・修了後5年間継続します。

学生委員



学生部長
キャリア支援センター長
オーケストラ担当教員
合田 香
ごうだ かおり



本学教授
NHK交響楽団
首席フルート奏者
神田寛明
かんだ ひろあき



本学准教授
ヴァイオリニスト
田中晶子
たなか あきこ



本学准教授
ピアニスト
沼沢淑音
ぬまさわ よしと

センタースタッフ



大島路子
おおしま みちこ

本学弦楽器専攻(ヴィオラ)卒業後、米国イーストマン音楽院に学ぶ。演奏の他にも、音楽の社会貢献について研究、活動をしてきた。2014年のキャリア支援センター創設時より、進路相談や各種講座の企画、アウトリーチのコーディネートなどに携わっている。本学教員(英語およびキャリアデザイン)。



向後由美
こうご ゆみ

ピアノを専攻。並行して社会心理学を学ぶ。就職氷河期の時代に音楽出版社に入社。主に弦楽器の雑誌編集に携わり、演奏家へのインタビューの他、音楽祭、コンクール、マスタークラスなどを取材。出版不況の中、IT企業が手がける書籍編集部の立ち上げに関わる。現在、フリーライター、エディター。

桐朋のキャリアサポートとは？

桐朋学園大学「キャリア支援センター」では、進路(就職、進学、留学、演奏家や指導者として独立等)に関する相談を受け、桐朋学園の卒業生として社会に出て行くためのさまざまな支援を専門的に行っています。

幅広い視野を身に付け、自分自身とじっくりと向き合い、世界でたったひとつの、あなたならではの人生を開拓してください。その模索と実現を後押しするのが桐朋のキャリアサポートです。



桐朋学園大学
キャリア支援センター

<https://www.toho-career.com>